

はじまります！ 諏訪市の小中一貫教育

“自らを拓き、未来を生きる。”子どもを育てます



未来の諏訪を創る9年間の人間教育

●「小中一貫教育」って何ですか？

小学校と中学校で共通する「9年間の一貫した教育目標」を設定した上で、「9年間の系統性・体系性に配慮した、小中一貫カリキュラム」を編成し、児童生徒の成長を支える仕組みを整える教育です。
これからの少子化等の社会環境の変化に対応できるように、児童生徒一人ひとりの「社会的自立」を9年間を通して育む環境を創る教育です。

●具体的にはどのような教育になるのですか？

- 小学校1年から中学校3年までの「異学年(異年齢)交流」による学習や行事等を充実させ、「思いやりの心」を育みます。
- 小学校と中学校の教員は小中併任(小中両方の職務に携われる)となり、教員が「互いに乗り入れる授業」を行う環境を整えます。
- 小学校と中学校の教員が、9年間の子どもの育ちの姿を共有し、児童生徒一人ひとりの「教育的ニーズに応じた支援計画」をもとにした特別支援教育を進めます。また、「小学校高学年の教科担任制」、「中学校の学年担任制」などにより、複数の教員がこれまで以上に連携して子どもの育ちを支えます。
- 一貫教育の実施に必要な「教育課程の特例」を諏訪市教育委員会の判断でできるようになることから、「すわっこ学習(小学校)・諏訪学(中学校)」「相手意識に立つものづくり科」を核にした学習をよりダイナミックに展開する中で、ふるさとや人を想う心を育みます。
- 地域と連携した「コミュニティスクール(CS)」は、小中それぞれの特色を活かした活動を進めると共に、小中が連携して一体となった運営を目指します。
- 小中の段差を緩やかにする取組を工夫して、小学校と中学校の違いから中学校1年の生活に不安をもつ、いわゆる「中1ギャップ」の緩和を目指します。

令和3年4月より東部地区の上諏訪中学校と上諏訪小学校において、施設併設(隣接)型の小中一貫教育が始まります。



『相手意識に立つものづくり科』を中心に、諏訪版キャリア教育を実践します！

—真の相手(ユーザー)を意識することで、主体的な取組とアイデアが生まれる—

- ・諏訪地域の企業に受け継がれる「ものづくり」の精神を学びます。
- ・企業見学などを通し、使い目線のものづくりが大切であることを学び、製作や生活に活かします。
- ・一人ひとりのロールモデル※2との出会いで、自分自身のキャリア形成を図ります。

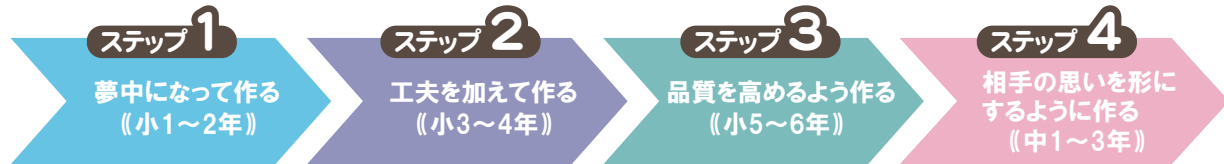
※2「将来、あの人のようになりたい」という人物



すごい製品や技術ばかりだ!



“相手に思いを寄せたものづくり”を、小1から中3までステップアップします。



『ふるさと学習』により諏訪に誇りをもつ子どもを育てます！

—ふるさとの『ひと』の歩み、『もの』の存在、『こと』の営みを探究的に学ぶ—

“体験的な地域学習”「すわっこ学習」(小学校)



大きなカリン、すごい!



“諏訪から世界が見える”「諏訪学」(中学校)



- 人物
- ・ 出版人: 岩波 茂雄
 - ・ 気象学者: 藤原 咲平
 - ・ 舞踊家: 新村 英一
 - ・ 作家: 平林 たい子
 - ・ 考古学者: 藤森 栄一
 - ・ 作家・気象学者: 新田 次郎 など

小・中の接続を大切にします

保護者、地域の皆様へ

小中一貫教育は、異年齢集団の中で子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、努力することを通して、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことを可能とする重要な特質を持っています。今後、更に進むとみられる少子高齢化の中、30～50年後の諏訪市の教育状況を考えたとき、子どもたちの学習のダイナミズムを確保し、豊かで健全な成長を支え、将来の諏訪市を担う人材を保護者、地域の皆様と共に育みたいと願っています。ご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

《諏訪市教育委員会》



新しい時代の新しい教育を目指します



特色その1

教師の専門性を活かして、確かな学力の定着につなげるために、学習内容や授業形態などカリキュラムを工夫します。



英語でコミュニケーション

- ・小中 9 年間で学ぶ学習内容の系統性（つながり）を重視し、教科の見方や考え方を、深く学べるように工夫し、多様な学びの中で学力の向上を図ります。
- ・小学校高学年では、算数、英語、理科等、一部教科担任制を導入します。
- ・各教科、領域（人権教育、環境教育など）の学習において、「伝えあう力」を大切に学習を行います。
- ・つまづきやすい算数数学、英語などでは、学年をつなぐジョイントカリキュラム（繰り返し学習を含む）による学習や、少人数学習、チームティーチング（T-T）を取り入れた授業を行います。

特色その2

小学校から中学校へのスムーズな移行のために、複数の目で共に子どもたちと関わります。

- ・小中学校の教員が可能な教科で、相互の学校に入って授業を行います。
- ・6年生は定期的に中学校のリズムで授業を受けます。（中学校での50分授業など）
- ・中学校では、従来の「学級担任制」から、学年の教員が全学級の担任になる「学年担任制」を順次取り入れ、子どものサポート体制の充実を図ります。
- ・9年間の連続性を活かし、一人ひとりを大切に特別支援教育の充実を図ります。



特色その3

互いの結びつきを深め、憧れや思いやりの心を育てるために、小中学生が、異年齢集団で学習や交流をします。

- ・小中学生が様々な場面（児童会、生徒会、学校行事等の活動や学級活動、総合等）で、共に学ぶ機会を充実させます。
- ・アフタースクール（部活動、放課後学習、地域の行事や文化活動）の活動を通して、児童生徒はもとより、地域との結びつきを深めます。



中学生による読み聞かせ

特色その4

社会を見つめ、自己理解を深めるために、諏訪を探究的に学び、諏訪に生きる誇りと志を育みます。

- ・小学校「すわっこ学習」、中学校「諏訪学」の「ふるさと学習」で、諏訪地方独自の歴史や文化、自然を学びながら、地域や世界を見通した課題探究へつなげます。
- ・「相手意識に立つものづくり科」を中心にして、小中の接続を大切に、諏訪版キャリア教育を実践します。

特色その5

「人の温かさ、やさしさ」「心のふるさと諏訪」に触れる一助とするために、地域協働の学校づくりを更に深化・発展させます。

- ・中学校区の信州型コミュニティスクール（CS）の充実による地域連携を拡充します。
- ・新たな学校づくりを通して、地域の方々と学校が協働して、魅力ある学びのまちづくりを推進します。



CSメンバーによるクラブ支援



- ・多様な学び、学校生活を創ります
- ・関わる人々と共に希望を語り合い、より良い人格形成を目指します



命の学習・SOSの出し方に関する授業



小中合同避難・引き渡し訓練



小学生への勉強お助け隊



伝統文化に触れる



諏訪湖清掃のボランティア

「伝えあう力」※1 を育む授業を大切にします

—「なぜ?」「どうして?」の問いから始まる「伝えあう力」の授業サイクル—

※1 「伝えあう力」
相手や自分の意見・考えを正確に理解しあう力



その1

見通しをもつ
《予想・仮説、情報の収集》
「なぜ?」「どうして?」という問い(課題)をもって、その解決に向けた、自分の予想・仮説を授業で発表する。

- ・日常の事象について、自主的な調査、見学、実験・観察、インタビューやアンケートなど直接対面して、解決に必要な情報を得ます。



問いをもつ

「伝えあう力」を中心に据えた日々の授業は、5つの基本的な段階を繰り返しながら9年間展開していくんだね!

その5

伝える《発信・伝達》
適切な手段で説明する。

- ・自分の学びや意見を言葉、図表や絵、劇などで発表します。
- ・高学年や中学では具体物での説明や、パソコンを使って発表します。



考えを説明する



その2

話し合う
《討論・協議・理解・判断》
協働して課題を解決する。

- ・授業で「発表」した情報や提案を、クラスやグループで討論して吟味・検討します。
- ・課題を追究する中で、自分の思いや考えと結びつけて、広く深い思考へと練り上げます。



その4

表現する
《表現・自己実現》
心に思うこと、感じたことを形に表す。

- ・自分の考えや理解したことを、言葉、身体や絵、文章などさまざまな方法で表現します。



その3

まとめる
《情報処理・整理・記録》
結論の根拠や理由を示して、理解し易くする。

- ・理解した事象をノートやパソコン(ICT)に情報として整理をします。
- ・統計的な手法も積極的に取り入れます。



関わり合って、誰もが安心して学び、確かな学力と豊かな感性を養います。

